

# かるがも



第14号

発行所 千葉県こども病院  
〒266-0007 千葉市緑区辺田町 579-1  
TEL 043-292-2111  
FAX 043-292-3815  
<http://www.kodomo.umin.jp/>

残暑お見舞いに代えて

☆☆情報社会に想う☆☆



病院長 伊達裕昭

地震そして台風と、梅雨明けの直後は異常気象に見舞われましたが、その後は例年の通り今年も厳しい残暑が続きました。それでも夏ばて気味な大人をしりめに、病院の中の子ども達の声はいつもより大きく響いて、活気にあふれていました。毎年この季節の始まりには、子ども達みんなが元気に夏の生活を体験して、たくさんの楽しい思い出を作れるようにと思います。そして今、残念ながら病院や療養でこの夏を過ごさざるを得なかった子ども達には、早く病気を治して来年こそは夏を存分に楽しめるようにと願っています。

新潟を中心にした昨年の中越地震の記憶がまだ強く残る中、今年になってからは宮城や茨城、千葉にも大きな地震が立て続けに発生しました。こうした一連の地震活動から、新聞や各種メディアは近々にも直下型地震が起こる可能性とそれに対する備えの重要性を報じています。当院は毎年、火事災害に備えた防災訓練を定期的に励行しており、今年も11月5日(土)の午前中に実施する予定です。今年は上記のような状況も考慮して、地震により病院施設の一部が倒壊し火災が発生したという想定で、例年よりも少し大がかりな訓練を消防署と協力して行うことにいたしました。当日は一部の患者さまや来院されるご家族の方々にはご迷惑をおかけしますが、大勢の人の生命を預かる病院の危機管理の上で重要な問題ですので、なにとぞご理解のうえご協力いただきたいと思います。

日常の安定した生活が脅かされるこうした状況下にあっては、不安や心配が簡単に増幅されて、ここに入り込む隙が生じることは珍しくありません。耐震工事に名を借りた悪徳リフォームの報道などはまだ記憶に新しいところですが、健康や体に関する不安、気がかりについても状況は同様のようです。ある食品が体に良いと放送されると、翌日には商店の陳列棚からその

商品が消えてしまうほどの影響力をもつテレビ番組があるそうです。また、虫に刺されたり頭が痛かったりといった日常よく経験するできごとも、放置すると生命に係わる大変なことになる、といった恐ろしい内容を喧伝する番組も人気があると聞きます。私達は「天が崩れ落ちてこないかと寝食が滞るほど心配した」という、古代中国の「杞憂」の故事を笑うことはできないかも知れません。

最近のインターネットやメディアの発達で、私達は非常に簡単に多くの情報を瞬時に集めることができるようになりました。いろいろなことを知る機会もその方法も限られた昔に比べ、現在は大変に幸せな時代であると言えます。しかし一方、手に入れた情報の真偽を判断することが難しいため、権威的な情報をただ鵜呑みにする(テレビで放送していた、有名な人が書いていた、だから正しいと判断する)傾向がありはしないでしょうか。

私達は今、これまでに経験したこともない情報社会に生きています。あふれるほどの情報の洪水の中で本当に正しい情報がどれなのか、今の自分に必要な情報は何か、を取捨選択することは難しいのですが大変に重要なことです。医療の現場におけるセカンドオピニオン(他の医療機関を受診して別の医師の意見を聞く)やインフォームドコンセント(説明を受けて十分に納得した上で同意する)の問題も、こうした時代の流れの中で加速してきました。最終的な判断は当事者に委ねられますが、来院された患者さまやご家族が真に知りたい情報を提供すること、みなさまがお持ちの情報を的確に取捨選択するお手伝いをするなども、当院のような専門病院に課せられた重要な役割であると私達は認識しています。

こうした機能の一つとしてこの9月から当院はホームページ(<http://www.kodomo.umin.jp/>)をリニューアルし、内容・体裁ともに一新いたしました。病院が伝えたい情報よりも、病院外の人を知りたいと思われる情報を優先し、解りやすく提供することを主眼に作成されています。今後はさらに内容の充実と最新情報の更新を進める予定です。

来院される患者さまご家族はもちろんのこと、ホームページ上でお立ち寄りの方々にも、当院が提供する医療情報が正確かつ適切、十分であり、結果としてみなさまに信頼していただける病院になれるように、これからも努力してまいります。



平成17年9月1日

